

平成 22 年度 予算要求事業調書

1 予算要求事業の概要

事業名(予算の事務事業名)				区分
8	食品安全強化プロジェクト(食の安全確保対策事業、食品衛生事業、生活科学検査事業)			新規 拡大 継続
会計区分	款	項	目	所管
一般会計	4	1	4	保健福祉局保健部食品安全推進課、保健所食品衛生課、健康科学研究センター生活科学課
事務事業の位置付け				
しあわせ倍增プラン2009	番号		事業名	
総合振興計画新実施計画	事業コード	2601	事業名	食の安全確保対策事業
根拠法令等	食品衛生法、さいたま市食の安全基本方針			
予算要求事業の概要				
内容	<p>食の安全に関する市民意識と知識を高めてもらうため、食の安全・安心市民講習会や「サイエンスカフェ」の開催、小中学生を対象とした啓発事業を行うとともに、食の安全情報をさいたま市ホームページ等で迅速に分かりやすく発信します。</p> <p>高齢者、乳幼児等食のハイリスク者に重点を置いた施設等の監視指導の実施や、食品関係営業施設への監視指導件数及び収去・買上げによる輸入食品を含めた食品検査の検体数を拡大します。</p> <p>検査に必要な農薬等の標準品を整備し、緊急時の対応に備えるとともに、検査可能項目等の拡充を図ります。</p>			
目的・目標	<p><目的> 生産から消費に至る食の安全確保を図るため、関係3課が連携し、食に起因する健康被害の未然防止や拡大防止に関する体制の整備を行うものです。</p> <p><目標(平成25年度末)> 1 食の安全講習会修了者による仮称「食の安全推進員」活動の実施、サイエンスカフェの開催 2 小中学生を対象とした食の安全の啓発事業の実施 3 監視指導件数8,000件、食品検査件数1,000件 4 食品の検査体制の強化</p>			
現状と課題	<p><現状(平成21年度末見込み)> 1 監視指導件数5,200件、食品検査件数956件 2 農薬等の標準品の整備(114種類) 3 小中学生を対象とした食の安全の啓発事業の仕組みの構築</p> <p><課題> 事業を拡大するにあたり、効果的な食の安全情報(市民への情報提供、リスクコミュニケーション)の検討や効率的な監視指導の実施及び食品の検査可能項目等の拡充が必要となります。</p>			
今後のスケジュール	<p>・平成22年度 サイエンスカフェの開催、食の安全市民講習会の開催及び仮称「食の安全推進員」制度の構築 小中学生を対象とした食の安全の啓発事業の仕組みの構築・実施 監視指導件数6,600件、収去・買上げ件数の拡大 農薬等の標準品の整備及び検査可能項目等の拡充</p> <p>・平成23年度以降 サイエンスカフェの開催、食の安全市民講習会の開催及び仮称「食の安全推進員」による活動 小中学生を対象とした食の安全の啓発事業の実施 監視指導件数8,000件、収去・買上げ件数1,000件 農薬等の標準品の整備及び検査機能の強化</p>			

2 予算要求の内容と査定結果

(単位：千円)

区分	金額	備考	
平成21年度	当初予算	3,000	<積算内訳> 1 農薬等の標準品の整備(生活科学課) 3,000
	財源内訳 一般財源	3,000	
平成22年度	当初予算要求	8,859	<積算内訳> 1 サイエンスカフェ講師謝礼等(食品安全推進課) 231 2 食品衛生に関する児童・生徒用教材等(食品衛生課) 1,128 3 農薬等の標準品の整備及び検査項目等の拡充(生活科学課) 7,500
	財源内訳 一般財源	8,859	<要求理由> 市民の食に対する信頼が大きく損なわれている現状から、「さいたま市食の安全基本方針」に基づき、生産から消費に至る食の安全確保を図り、市民の食への不安を解消し、食の安全に対する信頼の確保に資するため、食品安全推進課、食品衛生課、生活科学課の3課が連携し、事業を推進するため、必要な経費を要求するものです。
	財政局長査定	4,000	<査定内容> 1 サイエンスカフェ講師謝礼等(食品安全推進課) 0 2 食品衛生に関する児童・生徒用教材等(食品衛生課) 0 3 農薬等の標準品の整備及び検査項目等の拡充(生活科学課) 4,000
	財源内訳 一般財源	4,000	<査定理由> サイエンスカフェに係る経費については、経費をかけない手法による実施も含むため予算化を見送りました。 児童・生徒用教材等については、職員が実施できる部分を含むため精査しました。 検査項目等の充実については、前年度の実績を参考にして精査しました。
	市長査定	4,000	<査定内容> 同上
	財源内訳 一般財源	4,000	<査定理由> 財政局長査定の内容及び理由について、適正と認められるため、財政局原案のとおりとしました。